

(二〇一一年度)

### 3 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は20ページ、三問である。)

#### 受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、携帯電話・PHSの電源は切ること。
- 三、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 四、監督から試験開始の合図があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
- 五、解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 七、マークをするとき、枠からはみ出したり、枠のなかに白い部分を残したり、文字や番号、枠などに○や×をつけたりしてはならない。
- 八、訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 九、解答用紙を折り曲げたり、破つたりしてはならない。採点が不可能になる。
- 十、試験時間中に退場してはならない。
- 十一、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十二、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一 次の文章は、二〇〇二年元旦の朝日新聞の特集「接続詞のない時代」に寄せた井上ひさしの文章である。これを読んで、後の問に答えよ。

ヒトは平均して三五〇グラムの、まっさらな脳をもって母の胎内から<sup>a</sup>（涙の谷へ<sup>b</sup>）旅立つ。このあと、十二歳前後で脳は八割方できあがり、十七、八歳で、平均一三五〇グラムにまで生育し、ついに完成にいたる。つまりヒトの脳は、長い時をかけながら四倍にも増えるのだ。

十二歳前後までがとりわけ重要で、この期間に、ヒトは脳の生育と歩調を合わせながら言葉を習得する。喃語期<sup>なんご</sup>をへて幼児期に入った彼ら新しいヒトは、なによりも先に、【あつ、う、うん、いや】などの感動詞を身につける。感動詞は一語文<sup>いちごぶん</sup>、それなりに意味は含んではいるが、孤立した一語文でモノを考えることはできない。そのときそのときの感覚や感想を一方的に表出<sup>ひだして</sup>するだけである。

やがて彼らは 1 代名詞の使い方を会得する。ボクという代名詞を覚えることで、母と一体の至福のときに別れを告げる。ボクと母とは、ちがう存在だと、ボクという代名詞を使うこと<sup>2</sup>で知<sup>2</sup>ってしまうのだ。こうして自我意識が芽生え、彼らは ゆっくりと「自己」というものをつくりはじめる。

そうするうちにも、基本的な生活語彙はすさまじい勢いで増えてゆき、就学前後に彼の辞書はほとんど完備されるが、その総仕上げは接続詞の習得である。

「でもさ」で 3、「それからさ」で 4、「それでね」で 5、「だから、そうすると、そうしたら」で考えを先へ先へと展開する。接続詞を駆使することでコトガラの意味を確定し、継続し、否定し、仮定し、補足し、ひっくり返して（考えるヒト）になる。こうして「人間」が誕生する。

獲得した膨大な語彙群を整理するのも接続詞の役目である。雑然とした集まりの語彙群を、たとえば、【宇宙―銀河系―太

陽系ー地球ーアジアー東アジアー日本国ー〇〇県ー〇〇市ー〇〇町ー〇〇番地ー自分の家」というふうに秩序づけることができるのも、接続詞や接続助詞があればこそだ。こうして接続詞を駆使することで秩序づけられた世界観、「世界とは、どうやらこういうものらしいぞ。それならばこう生きて行こう」という見方をもとに、彼らはそれぞれの人生観を築きあげる。万が一、ここまでの作業にしくじると、「十四歳の犯罪」を起す張本人になってしまうおそれがある。彼らも必死だ。

ここまでを、まとめれば、接続詞はまことに偉大、接続詞こそが(考えるヒト)をつくる。

ところで、最近のわたしたちは、考えるための最良の武器である、この接続詞をあまり使わなくなった。超高層ビルが二棟も自爆テロで崩れ落ちるといふ世の中だからムリもない。あんなおぞましい光景を目のあたりにすれば、感動詞を絶叫しながら呆然としているしかないではないか。そればかりか、むかしなら十年に一回というような大事件がつづけざまにおきるので、そのたびに思考が断ち切れ感動詞を叫ぶだけ、接続詞を使う余裕を失ってしまった。

接続詞の失われた時代の象徴の一つに、優勝力士を讃えた小泉首相の談話がある。

「感動した」

感動文がそのまま談話になる時代にわたしたちは生きている。

「個人的で、感情的で、断定的な一語文、つまり感動詞を、きっぱりした口調で繰り返し、聞く者に強い印象を与える。そうしておく、最後は、言っていたこととはちがう、修正した政策を行う」

小泉首相のこの感動詞的政治を高い支持率で応援しているのがわたしたちであってみれば、わたしたちもまた感動詞で考えようとして、考えあぐねている人間になっていることになる。つまり、わたしたちはそろって幼児に退行してしまっただ。

小泉首相のよさも認めないわけではない。日本の政治的リーダーには珍しく禁欲の匂いがするし、その身边は清潔であるらしい。そうでない人物ばかりを首相に迎えないければならなかった国民が、彼の「聖者性」に期待するのは無理からぬことだが、

しかし、いつまでも思考の道具としては使えない感動詞でモノゴトを考えていてはあぶないのではないか。

①株価が半値以下に下落し、②田安が進み、③金融機関が不良債権に苦しみ、④政府の赤字がふくらみ、⑤大中小企業がつぎつぎに崩壊し、⑥全土に失業者が溢れだし、⑦その一方で官僚や政治家の不手際がつづけば、フツの国なら、革命……は大げさでも、大政変がおこるところだが、そうならないのは、わたしたちが、ただびつくり系の感動詞を発するだけで、因果の構造を考える接続詞を柵の上に置きっぱなしにしているからにちがいない。①から⑦までの各項目を、せめて小学生なみに接続詞を駆使して、一つの大きな文脈にまとめることが、今年の優先順位第一の仕事である。

<sup>12</sup>今年、わたしもたいていの情報を遮断して、モノゴトの本質をじっくり考えるつもりだ。【わたしは人間である。そして、アジア人であり、それから、もちろん日本人の一人でもある。いつぼう、わたしは、自分と、家族と、近所と、友人と、仲間と、大勢の人たちと、人並みに生きていきたいと願っている。ところが、それがむずかしくなってきた。しかしながら……】というように、いくつも接続詞や接続助詞を使いながら<sup>13</sup>小学生にかえる。

(井上ひさし「感動詞から離れ、考えるヒトにもどろう」)

〔注〕 ○涙の谷…旧約聖書の詩篇第八四に用いられる。悲しみの中にあるこの世を谷にたとえた語。「嘆きの谷」とも。

○十四歳の犯罪…当時、「十四歳の犯罪」が報道をにぎわせていた。

問一 空欄1に入れるべき語としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 関係      b 不定      c 人称      d 指示

問二 傍線部2の「てしまうのだ」と同様な、ヒトの成長過程に対する筆者の見方が反映されている表現として、もっとも適切なものを次の中(本文中の点線部a～d)から一つ選べ。

- a 母の胎内から〈涙の谷〉へ旅立つ。
- b そのときそのときの感覚や感想を一方的に表出するだけである。
- c 彼らはそれぞれの人生観を築きあげる。
- d 超高層ビルが二棟も自爆テロで崩れ落ちるという世の中だからムリもない。

問三 空欄3、4、5に入る語としてもっとも適切なものを次の中から一つずつ選べ。

- a 先行文を後へとつなぎ
- b 前の文に新しい意味を加え
- c 前提を覆し
- d 文脈を転換し

問四 なぜ、筆者は、傍線部6「十四歳の犯罪」を起こす張本人になってしまうと危惧するのか。その理由として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 代名詞を正しく習得せず、母と一体のままでいるため。
- b 感動詞で考えようとして、考えられない人間になったため。
- c 生活語彙が急速に増加して、人生観が混乱したため。
- d 接続詞を駆使できず、世界観を構築できないため。

問五 傍線部7「接続詞こそが〈考えるヒト〉をつくる」と筆者が考えるのはなぜか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 言語習得の総仕上げとして、膨大な語彙群を秩序づけるはたらきをもつのが接続詞であるから。
- b 接続詞を効果的に駆使しなければ、雑然とした語彙群を理解することはできないから。
- c ヒトの個体発生においても、系統発生においても接続詞は最終段階で獲得されるものであるから。
- d ヒトの脳の生育と歩調を合わせながら言語を習得するためには接続詞が欠かせないから。

問六 傍線部8「この接続詞をあまり使わなくなった」のは、なぜか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 考えを先へ先へと展開させることに急ぎすぎたから。
- b 今日では「感動した」の一文が効果的な談話として容認されるから。
- c うまく世界観や人生観を構築できない人間が多くなったから。
- d 思考が断ち切られるような大事件が相次ぐ現代であるから。

問七 傍線部9で用いられる「幼児」とはどのような時期を意味するか、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 脳がまつさらな時期
- b 代名詞を知らない時期
- c 一語文しか使えない時期
- d 辞書が完備された時期

問八 傍線部10「いつまでも思考の道具としては使えない感動詞でモノゴトを考えていては」とあるが、どういう意味か。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 何を考えているかわからないのは
- b 何か考えているふりばかりをしていては
- c 何も考えようとしないのは
- d 何とか考えようとしていては

問九 傍線部11「接続詞を柵の上に置きっぱなしにしている」とはどういう意味か。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 判断を保留している
- b 思考を放棄している
- c 思考を断念している
- d 真偽を知らずにいる

問十 傍線部12は、なぜモノゴトの本質を考えるには「たいいていの情報を遮断」しなければならないのか。その理由としてもつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 感動文がそのまま談話になる時代なので
- b 大政変がおこるかもしれないので
- c 大事件がつづげざまにおきるので
- d まず自分の家から考えたいので

問十一 傍線部13の「小学生」とは、どういう意味か。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 自分、家族、近所、仲間と、身近な者から見えていく小学生
- b 語彙群を秩序づけ始めた小学生
- c 自我意識が芽生えたばかりの小学生
- d 人生観を築き始めた小学生



二 次の文章を読んで、後の間に答えよ。

今は昔、小野宮のおほき大臣、左大臣にておはしましける時、三月の中旬のころほひ、公事くじによりて内裏うちに参り給ひて、陣かんだちめの座におはしましけるに、上達部かんだちめ二三人ばかり参りあひて候はれけるに、南殿の御前の桜の、器うつはの大きに神さびてえもいはぬが、枝も庭まで差しおほひて、おもしろくさきて、庭にひまなく散り積みて、風に吹き立てられつつ水の浪なみなどのやうに見えたるを、大臣、「えもいはずおもしろきものかな。例2はいみじくさけど、いとかかる年はなきものを。土御門の中納言の参られよかし。これを見せばや」とのたまふほどに、はるかに上達部かんだちめの前まへを追おふ音こゑあり。

官人を召して、「この前は誰が参らるるぞ」と問ひ給ひければ、「土御門の権中納言の参らせ給ふなり」と申しければ、大臣、「いみじく興あることかな」と喜び給ふほどに、中納言参りて、座に居るや遅きと、大臣、「この花の庭に散りたる様は、いかが見給ふ」とありければ、中納言、「げにおもしろう候ふ」と申し給ふに、大臣、「さては遅3くこそ侍れ」とありければ、中納言心に思ひ給ひけるやう、「この大臣はただいまの和歌4にきはめたる人におはします。それにはかばかしくもなからむことを、面5なく打ち出でたらむは、あらむよりはいみじくつたなかるべし。さりとして、やむ6ことなき人の、かく責め給ふ事を、すさまじくてやまむも便なかるべし」と思ひて、袖をかきつころひて、かくなむ申し上げける、

とのもりのとものみやつこ心あらばこの春ばかりあさ8ぎよめすな

と。大臣、これを聞き給ひて、いみじくほめ給ひて、「この返し、さらにえせじ。劣りたらむに、長9き名なるべし。さりとして、まさらむことはあるべきことにもあらず」とて、「ただ旧歌10ぞおほえまさむ」と思ひ給ひて、忠房もろふが唐へ行くとして読みたりける歌をなむ語り給ひける。

〔『今昔物語集』〕

〔注〕○小野宮のおほき大臣―藤原実頼。九〇〇〜九七〇。

○器―樹木の空洞になつたところ。

○土御門の(権)中納言―藤

原敦忠。九〇六〜九四三。○とのもりのとものみやつこ心あらばこの春ばかりあさぎよめすな―『拾遺和歌集』雑春に源公忠（八八九〜九四八）の歌として載る。ここは、自作歌ではなく、公忠の歌を披露したもの。○とのもりのとものみやつこ―主殿寮とのもりのつかさの下級宮人。宮中の清掃などを担当した。○あさぎよめ―毎朝宮中でおこなわれる掃除。○忠房が唐へ行くとして読みたりける歌―『古今和歌集』卷十八に出る藤原忠房の歌「なよ竹のよ長きうへに初霜のおきゐてものを思ふころかな」をさす。

問一 傍線部1の「浪」と同じ表現を、次の和歌から一つ選べ。

- a 谷風にとくる氷のひまごとにうち出づる浪や春の初花
- b 河風の涼しくもあるかうち寄する浪とともにや秋は立つらむ
- c 桜花散りぬる風のなごりには水なき空に浪ぞたちける
- d 草も木も色かはれどもわたつうみの浪の花にぞ秋なかりける
- e 秋風に浪やたつらん天河わたるせもなく月の流るる

問二 傍線部2「例はいみじくさけど、いとかかる年はなきものを」の現代語訳としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 毎年美しく咲いているが、これほどみごとな年はないことだなあ。
- b 例年はあまり美しく咲かないが、こんなに美しく咲いた年はないことだなあ。
- c 毎年みごとに咲いているが、今年はいつもの年に及ばないことだなあ。
- d 毎年立派に咲いているが、このようにうれしい気持ちになる年はないことだなあ。

問三 傍線部3「さては遅くこそ侍れ」は、どういうことを言ったものか。もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a それにしては、参内するのが遅いですね。
- b それにしては、気のきかない返事ですね。
- c それにしては、和歌のできるのが遅いですね。
- d それにしては、先払いの来るのが遅すぎますね。

問四 傍線部4「和歌にきはめたる人」の説明として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 歌壇の状況に通じている人。
- b 歌道の奥義を会得した人。
- c 和歌を作るのが上手な人。
- d 歌に関する知識をたくさん持っている人。

問五 傍線部5「面なく打ち出でたらむは」の意味として、もっともふさわしいものを、次のうちから一つ選べ。

- a 謙遜しながら詠むことは
- b 自信を持って詠むことは
- c 面目なさそうに詠むことは
- d 臆面もなく詠むことは

問六 傍線部6「あらむよりはいみじくつたなかるべし」と同じ考え方の文章を、次のうちから一つ選べ。

- a 上手な歌を作ることよりも、素早く作ることの方が大切だ。
- b 下手な和歌を披露するのは、なにもしないでいるよりもよくない。
- c 和歌を求められたらいつでも即座に作れるような日頃の習練が大切だ。
- d 即座によい歌を作ることができなかつたら、別の方法を考える必要がある。
- e 下手な和歌を披露しても、不名誉にはならない。

問七 傍線部7「すさまじくてやまむ」の説明として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 興ざめな態度をとる。
- b やりすごしてしまう。
- c 無愛想に断ってしまう。
- d 知らん顔をして立ち去る。

問八 傍線部8「あさぎよめすな」の理由としてもつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 桜が美しく咲いているから。
- b 桜が散ったさまがみごとだから。
- c 毎朝散る量が多いので、作業がたいへんだから。
- d 「このもりのとものみやつこ」に桜を愛する気持ちを持ってほしいから。
- e 桜に似つかわしくないから。

問九 傍線部9「名」の意味にもっともふさわしい熟語を、次の中から一つ選べ。

- a 名目
- b 虚名
- c 名分
- d 汚名
- e 名誉

問十 傍線部10「おぼえ」の意味にもっともふさわしい熟語を、次の中から一つ選べ。

- a 記憶
- b 興趣
- c 自信
- d 寵愛
- e 信任

問十一 敦忠の示した和歌に対する実頼の反応としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 敦忠の示した和歌がすばらしいのでとても感心し、すぐに返歌をしようとした。
- b 敦忠が即座に自分で和歌を詠まなかったことに不満を感じた。
- c 敦忠の示した和歌に対抗するには、和歌に対する自分の教養を示すしかないと考えた。
- d 敦忠の示した和歌のすばらしさをなんとかして長く後世に語り伝えたいと思った。
- e 敦忠に対して、和歌を急いで作れとせまったことを反省した。

問十二 この説話に関する説明としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 実頼が語った古歌は、敦忠の示した和歌に対する返歌としてきわめて適切であった。
- b 敦忠は、すぐに和歌を詠めなかったことを非常に恥ずかしく思った。
- c 実頼は、南殿の桜が見事に咲いているのを、だれも感心しないのが不満であった。
- d 実頼は、敦忠の和歌の才能をあまり買ってはいなかった。
- e 敦忠の示した古歌は、この場にきわめてふさわしいものであるところが実頼を感心させた。

### 三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

イギリス人は家畜とは人間が完全に支配すべき、それ自身は自律性を持たない存在と考えている。人間が人間のために利用する隷属的な存在であるから、逆に一切を面倒見る責任が人間にある。不用な犬や、回復の難しい病気に罹った犬を、自分の手で殺すのは、生きるも死ぬも支配者としての人間が決めてやるべきだという考えに基いている。

だから日本人のように、犬を捨てたりすると、人間としての責任をはたしていないと非難するのだ。従って彼等にとって、犬を安楽死させることが正しい犬の扱い方となる。一口に言えば、徹底的な人間中心の動物観なのである。何が残酷で何が残酷でないかは人間の決めることなのだ。だから一般にヨーロッパ人の残酷という概念は温血動物止りなのである。

そこで日本で犬が捨てられるとあって、犬のために悲しむイギリスの婦人も、大エビは生きたまま熱湯に投込んで料理するのが一番味がよいと言って平然としている。また食べるためでなく、楽しむために魚を釣るのも残酷ではないのだ。大きなカジキと何時間も海の上で全力を尽して戦うことは素晴らしいスポーツなのであって、魚が苦しむだろうと考えないのも同じ理由である。

もちろんイギリス人でも日本人でも、一般の人はいま述べたような動物観、生命観をはっきり意識しているわけではない。きけばいろいろと理屈づけはするだろうが、人々を無意識に動かしている基本的な価値体系の枠組<sup>3</sup>というものは、実は深くかくれているのである。

日本の南極観測隊が、氷にとじ込められてヘリコプターでやっと脱出した時、連れて行った樺太犬を置き去りにしてきたことがあった。この時も日本は勿論、外国からも非難の声が上がったことを覚えている方もあるだろう（南極のエコロジーの破壊を考えていないという非難は、それなりに正当なものであると私は思うが、ここではその点は考慮外とする）。

隊員たちは、ただ可愛がっていた犬たちを殺すにしのびなかつたのである。誰も犬どもが翌年まで生きのびようとは考えなかった。それでも殺す気にはなれないのだ。ところがどうであろう。翌年観測隊が再び昭和基地を訪れたとき、二頭が生存し

ていたのだ。殺さなくてよかったと隊員たちは思ったにちがいない。人間本位、人間中心の家畜の始末法とは違い、ここでは日本人の動物処理法の方が勝ったのである。少なくとも、犬の幸福を中心に考えればである。<sup>4</sup>

はじめに日本人が犬を躰け、意のままに服従させることが、英国人に比べていかに下手かということを詳しく例証したが(注)、こうしてみると、日本人はもともと犬をとことんまで支配する気がないのである。支配して完全に人間に隷属させるべきだと思っていないから、支配しようとしただけのことである。言い換えると、犬に、言うことをきかせるのはどだい無理だと思っているのである。

日本人にとっても、飼う以上は主人の意のままになり、言うことをきく犬は、都合がよいにきまっている。しかしこれは人間の側の希望であり期待であって、そうさせることが主人としての人間の犬に対する義務であり責任だと私たちは思っていない。まして、そのように犬を躰け扱うことが犬の幸福にも通じるなどという、犬にとって或る意味では迷惑千万な人間本位の立場は元来日本人にとって無縁のものだったのである。

もちろん或る文化、或る民族に固有な動物観とは固定的決定的なものではなく、また内容も単一明快なものでもない。イギリス人が犬を完璧に近いほど躰けられる原因の一つには、古くからかなりの牧畜文化を所有していたため、家畜の扱いに馴れていることも数えることができよう。また気候風土の関係で、犬と人間が閉鎖的な家屋の、一つ屋根の下に住む必要があったため、厳しく躰けなければ、人間の生活が乱されてしまうからだとも考えられる。

これに対し日本人は問題とするに足るような家畜文化も持たなかったし、家屋も開放的であり、高温多湿のため犬と同居することは、必要でもなかったし得策でもなかった。したがって人間と犬が狭い空間を共有することからくる共存のパターンを生み出しにくかったのであろう。

また宗教的な理由も一役買っているに違いない。キリスト教は周知の如く動物には魂を認めないが、日本人の古来の宗教<sup>5</sup>は、アニミズムやシャーマニズムの要素が強く、そこに加重された仏教には輪廻の思想もある。

このような彼我の世界観の違いは一言にして言えば断絶の思想と連続の思想の対比である。前者の立場に立てば、人間の優



位は決定的であり、後者の立場では相対的なものでしかない。

イギリス人にとって残酷とは、人間を中心とし原点とした立場から、それぞれの動物に彼等が割当てた役割にふさわしく、その動物を扱わない場合に生ずる概念であるらしい。<sup>7</sup>日本人にとって残酷とは、無益無用の殺生につながる概念であろう。

(鈴木孝夫『ことばと文化 私の言語学』)

〈注〉

筆者は、イギリスでは、犬は種類のいかにかわからず見事に躡けられ、不必要に吠え立てたり騒いだりせず、静かに主人と連れだつて散歩するが、日本では、犬はそれ自体自由な存在と考えられているために、ごく最近まで犬をつないでいたり囲いに入れておくという習慣はなく、犬はあたりを自由勝手に歩き廻り、残飯やごみをあさり、家人の知らぬ間に縁の下で子供を生んだりするので、家人は仔犬こいぬを人通りの多い橋のたもとなどに捨てに行かざるをえなくなる、という事例を挙げながら日英の犬の躡しつけの違いを論じている。

問一 傍線部1の「人間としての責任」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 犬にとって何が残酷で何が残酷でないかを決めること。
- b 病気の犬は捨てないこと。
- c 人間が利用する家畜は不用になってもやたらに捨てないこと。
- d 生死の決定を含めて、犬のすべての世話をすること。

問一 傍線部2について、「ヨーロッパ人の残酷という概念は温血動物止り」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 温血動物は基本的に人間と同じ循環器をもっているので、この種の動物に対してヨーロッパ人は人間に準じる扱いをすること。

b ヨーロッパ人は、人間に近い温血動物に対しては感情移入をして、残酷という概念を抱くこと。

c 哺乳類・鳥類でも、ナマケモノやカッコウのような変温調節を行うものに対しては、ヨーロッパ人は残酷の概念は当てはめないこと。

d 分類学の発達したヨーロッパでは、動物は詳細に階層に分けられ、鳥類や哺乳類より下位の類は動物と認められないこと。

問三 傍線部3の「基本的な価値体系の枠組」というものは、実は深くかくれている」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 何に価値を認めるかという人々の価値観は歴史的に検証されてきたものなので個人が意識することはないと。と。

b 人々は別の価値体系をもつ人々の価値観に触れはじめて自分たちの価値体系の正当性を考えるようになるということ。

c 集団の価値体系は、それを保有する人々がとる行為のなかに組み込まれているということ。

d 価値体系の枠組は複雑で互いに矛盾する価値を含んでいるが、それらが意識されることはないということ。

問四 傍線部4について、筆者は「犬の幸福」をどのようなものと考えているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 犬が人間の支配から自由であること。
- b 犬が人間の予想を上回る生命力をもっていることを証明したこと。
- c 犬がともかくも生きていくということ。
- d 犬が人間本位の家畜の始末法から逃れられたこと。

問五 傍線部5の「日本人の古来の宗教は、アニミズムやシャーマニズムの要素が強く、そこに加重された仏教には輪廻りんねの思想もある」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 生物・無機物を問わずすべてのものに魂が宿り、さらに動物も含めた生類に生まれ変わるとい世界観は、人間と動物を分けへだてしないということ。
- b 日本人は、多神教的自然信仰の価値観をもっており、生まれ変わりによって来世が犬を含めた動物にならないよう、現世では動物を人間並みに丁寧に扱うということ。
- c 日本人は、多神教的自然信仰の価値観をもっており、さらにそれとは別にインド伝来の輪廻の世界観があるために動物に対する信仰心が強いということ。
- d 歴史的にもともと日本人がもっていた生物・無機物を問わずすべてのものに魂が宿るとい世界観と霊と交信の可能性を否定しない世界観に続いて、動物も含めた生類に生まれ変わるとい新たな仏教の世界観が日本人に浸透してきたということ。

問六 傍線部6の「断絶の思想」とはどのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 古くからの牧畜文化の伝統が、人間と家畜を厳しく分けたということ。
- b 犬を厳しく躰け扱うことが犬の幸福にも通じるという動物愛護の精神から主従関係を厳しく教え込むということ。
- c 犬を厳しく躰け扱うためには、犬に魂を認めることはできないということ。
- d 人間と動物は、支配と隷属という関係にあり、それは動かしがたいことであるということ。

問七 傍線部7について「残酷とは、無益無用の殺生につながる概念」とはどのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 残酷に対する考え方は、何の利益ももたらさない生きものであってもむやみに殺してはならないという思想に基づいていること。
- b 残酷に対する考え方のなかに、何の利益ももたらさないならば生きものを殺すことに意味はないという思想が流れていること。
- c 残酷に対する考え方のなかに、不用の生きものの方が有用の生きものより価値があるという思想が含まれていること。
- d 残酷に対する考え方は、不用になった生きものでもそれを殺せばその人に不利益という報いがもたらされることになるという自業自得の思想と結びついていること。







